東京DMATカーの更新時の仕様変更について（案）

資料６

１　背景と方向性

東京DMATカーは、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模な地震災害等が発生した場合において、東京DMATが被災現場で迅速かつ確実に活動できるよう、平成２３年度から２か年計画（２３年度１０台日産車、２４年度１５台トヨタ車）で全東京DMAT指定病院に配備されている。

走行距離が少なく、経年による故障は発生していないものの、財務省が定める法定耐用年数の倍の年数を超過しており、計画的に更新する必要がある。

従来からのコンセプトに加えて、都内における大規模な災害発生時等の観点からも仕様を検討し、車両ごとに走行距離などの面から判断し複数年で順次更新していく。

２　新たな東京DMATカーのコンセプト

○導入時からのコンセプト

大規模発生時、東京DMATの長時間に及ぶ現場活動を支えるための専用の多目的車両

①機動力向上　②自己完結型の活動能力　③通信手段の多重化

○新たなコンセプト

導入時からのコンセプトを維持しつつ次のコンセプトを追加

④患者の搬送機能の向上　⑤通信性能の向上

<u>④患者の転院搬送の向上</u>

都内における大規模な災害発生時にも機動的な運用のできる専用の多目的車両

⇒災害時における医療機関に対する支援活動の中で行う転院搬送と平時の病院業務としても患者の転院搬送に利用できるよう、防振架台付きのメインストレッチャーを設置する。

現状のDMATカー	→	今後の新たなDMATカー
2段ベッド型ベッド兼担架		2段ベッド型ベッド兼担架を廃止し、防振架台付きのメインストレッチャーの設置

<u>⑤通信性能の向上</u>

現状では、災害時用の音声通話とデータ通信を行う衛星通信機器として各車両にインマルサットBGANを装備している。しかしながら、能登半島地震対応では医療チーム等でStarlinkの活用が進んだことから、通信の専門家や能登半島地震対応の支援者からご意見を伺いながら導入していく。

参考：これまでのDMATカーの仕様について①

正面

左側面

二段ベッド

衛星アンテナとタープ

タープ下部

情報パネル

主要搭載品

情報通信

- 衛星電話
- 無線機（子機4台）
- パソコン
- FAX
- カーナビ
- テレビ

野営器材

- 寝袋
- テント
- コンロ
- 食器類
- 保存食
- 飲料水
- 簡易ﾄｲﾚ
- 冷蔵庫
- 発電機
- 2段ﾍﾞｯﾄﾞ

医療器具
DMAT標準資器材

参考：これまでのDMATカーの仕様について②

資材棚のレイアウト例

キャビンは右側が医療資器材収納棚（パソコンラック、TVモニタ、パソコンモニタ、衛星電話等を設置）
左側に跳ね上げ式１名席とマルチ跳ね上げ式３名シートを設置して、車内レイアウトの自由度を確保。
防振架台は設置しない。

WiFi アンテナ
衛星携帯につながる無線LANｱﾝﾃﾅ。

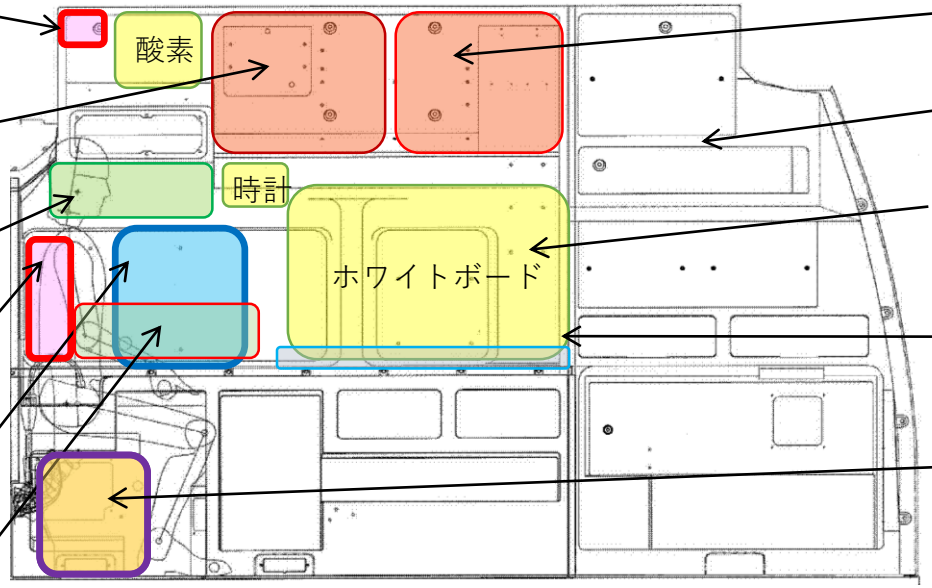
ＴＶモニター
ﾅﾋﾞのﾌﾙｾｸﾞﾁｭｰﾅｰからの信号を出力。ﾊﾟｿｺﾝ画面としても使用できる。

無線機の格納
トランシーバー５基の置き場所

車載衛星電話
ｽｲｯﾁとﾊﾝﾄﾞﾌｫﾝを設置。

収納式パソコンテーブル
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝを使う時には広げてﾃｰﾌﾞﾙになる。各種端子、コンセントもある。

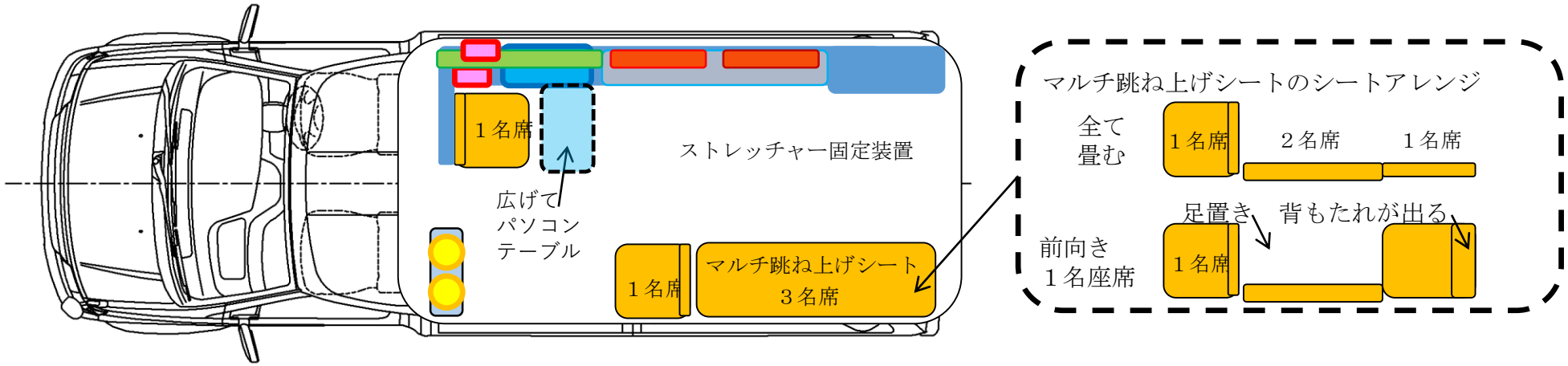
パソコン・プリンター・ＦＡＸ
パソコンテーブル収納時は隠れている。



パソコンモニター
ﾊﾟｿｺﾝ画面を出力。

カギ付き引き出し
収納棚の引き出しはｶｷﾞ付きとする。

ホワイトボード
会議をする時には、ここに設置。

立ち上り付の棚
棚の端に立ち上りを設け、載せたものが簡単には落ちないようになっている。衝撃吸収ﾏｯﾄを付属させる。

冷温蔵庫　10ℓ×１
冷蔵庫は後ろ向き座席の下。